

**平成 30 年度（2018）**

**学校関係者評価報告書**

**学校法人穴吹学園**

**専門学校 穴吹工科カレッジ**

平成30年11月27日

学校法人穴吹学園  
専門学校 穴吹工科カレッジ  
学校関係者評価委員会

## 学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校 穴吹工科カレッジ学校関係者評価委員会は、平成29年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

### 1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、専門学校 穴吹工科カレッジの自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹工科カレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

### 2. 学校関係者評価委員会

(委員)

野崎 敬三 野崎自動車株式会社 代表取締役社長  
宮崎 康則 香川県自動車整備振興会 香川県自動車技能教育センター課長  
山本 昌弘 元香川県立高等学校校長  
新家 勇司 東四国スバル株式会社 工場長 (穴吹工科カレッジ 卒業生)

(学校教職員)

乃村 久信 専門学校 穴吹工科カレッジ校長  
亀本 浩史 専門学校 穴吹工科カレッジ副校長代理  
大門 剛 専門学校 穴吹工科カレッジ教務課長

### 3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 平成30年11月27日 (火) 19:00～20:30

開催場所 学校法人穴吹学園 専門学校 穴吹工科カレッジ 402教室

### 4. 自己評価結果の説明・報告 (自己評価報告書参照)

当校の「教育理念」、「目的」及び「平成29年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果(総括)」、と「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。書式は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

### 5. 年間スケジュールに基づく、取組等の説明

- ①動員効果があるオープンキャンパスの実施
- ②教員の学生対応力の向上
- ③国家試験対策の実施
- ④退学率の減少

## 6. 意見交換、質疑応答

- 自己評価結果の総評について  
全体的な評価は「A」になっており、入学者数に関しては目標人数を上回った結果となった。  
しかし、退学率は、目標を少し超えてしまい、今後の課題といえる。
- オープンキャンパスの内容に関しては改善する余地があり、来年度には今までと違った内容を実施することが必要と思われる。昨年度の委員からの意見を元に今年度はカート市場体験を実施した。
- 教育改善に関しては、留学生の指導方法について、学習指導と併せて生活指導の実施も必要になってきている状況である。
- 部分的な評価のところで、「キャリア教育の未実施」や「文化に触れた授業の未実施」などがあり、今後は、学校とどのように取り組んでいくのかを検討していく必要があると思われる。
- 留学生について、今年度の入学生は、穴吹学園の日本語学校からの入学は減ってきている。  
県外から入学してくる留学生が多くなっている。香川県は生活しやすい所であり、生活費も安くでき、併せて工科カレッジの学費が安いことも理由の一つになっている。留学生の国別の割合は、ベトナム、ネパールが多く、残りインドネシア、中国、スリランカなどになっている。  
宗教については、お祈りが必要な学生がいるが、実際のところは、それほどお祈りをしている学生はいない。若い子が多いので、周りの目を気にしているような感じになっている。
- その他、留学生だけでなく、日本人の学生を増やすために、小学生の時から動機づけが必要であり、今後の課題となっている。

### <委員からの意見>

- 留学生の入学希望にともない日本人の入学定員枠変更について。  
→3年制は現在も留学生専用の学科ではなく、働きながらじっくり勉強ができるのが留学生にも受け入れられた結果。日本人も少数ながら在籍している。2年制の入学定員枠は現在25名
- 国家試験に不合格だった場合のフォローについて  
→半年後の受験を目指し、就職をした後もフォローを行っている。  
留学生に対しても同様のフォローを行うが、県外就職の割合が今後高くなる見込みであり、この場合は就職先の企業と連携し、合格を実現させたい。
- 留学生の増加に対する今後の見込み  
→業界での整備士不足は、深刻であり、技能実習生や新設される特定技能ビザでも自動車整備士は対象となっている。しかしながら、実際に技能実習生を受け入れた現場での成功例はまだ少なく。  
日本語力、知識・技術力・国家資格の面では養成校卒の留学生の評価が高い。  
留学生にとっても、期限なく日本で就労できること、家族の帯同ができること、また転職も可能であることから専門学校での勉強が有利であることを知ってもらう必要がある。  
そのためには教育の実績・合格率・就職実績を残し続けることが重要。

以上